

# 9月20日～26日は動物愛護週間

## 動物愛護週間とは…？

動物愛護管理法では、動物の愛護と適正な飼養について、国民の理解と関心を深めるため、毎年9月20～26日を動物愛護週間と定めています。期間中には、国や地方自治体、各種関係団体が協力し、全国で動物の愛護や共生に関する普及啓発のためのさまざまな行事が行われます。

この特集では、健康管理を中心に、より快適なペットライフを送るポイントを紹介します。身の回りの動物たちへの接し方を見直し、愛情を深めましょう。



〈企画・制作〉 デーリー東北新聞社広告局

## やすだ動物病院



安田伸巨院長(右)と安田祥恵さん。  
病気を未然に防ぐため飼い主さんとの対話も大切にしています

祥恵さんが特に注意すべきポイントとして挙げるのが、水の摂取量、尿の回数と量、体重の変化の3点。飲む水の量が増えた場合、腎不全や糖尿病など内分泌の病が隠れていることがあります。いずれの病も水と同時に尿の量も増加します。尿が増えると「水分を与えすぎているのかもしれない」と思いがちですが、伸巨さんは「病気のせいで尿が増えると自然と喉が乾くものです。お水を制限すると、脱水症状につながってしまいます」と注意

動物たちは自分の不調を本能的に隠す習性があり、毎日一緒にいる飼い主でさえも初期症状に気付くのは難しいものです。鍵は、一見健康に見える普段の様子の中から病気のサインに気が付けるかどうか。「やすだ動物病院」の獣医師安田伸巨院長と安田祥恵さんに早期発見のポイントをうかがいました。



### 注意 「水・尿・体重」に

を呼び掛けます。お椀1杯ぶん、牛乳瓶1本ぶんなど、1回に与える水の量をおねまかに把握しておくと、変化に気づきやすくなります。

また、伸巨さんは「ご飯をよく食べるのに体重が落ちるときは、何かしらの病気にかかっている可能性があります」と警鐘を鳴らします。初期のうちは元気もあります。初期のうちは元気も食欲もあるため、発見が遅れがちになり、異変が表面に出るころには手遅れになっています。ペットの体重はこまめにチェックします。初期の場合は、ひどく入って全身を巡り、糖尿病や腎臓病の要因にもなります。イヌの場合は、ひどくなると目の下にある歯根の膿が皮膚から出てくること。ケア方法は個々で異なるため、獣医師のアドバイスをもとに適切なケアを心掛けましょう。

### 万病の元 歯周病

伸巨さんは「歯周病は寿命に直結する恐ろしい病」と話します。ペットの歯周病も人間と同じく、進行するとあごの骨まで溶かします。また、傷口から細菌が入って全身を巡り、糖尿病や腎臓病の要因にもなります。

単位でゆっくりと進行するものも。急に症状が出ない限り、病気の兆候にはなかなか気づきにくいもので。だからこそ、「元気なときの健康状態を病院で数値として残すことが大事」と伸巨さんは話します。

### 定期受診で 予防しよう

ペットの病の中には、年子や育て方を話していくことで病気の予防にもつながります。獣医師とタッグを組んで、ペットの健康管理に努めましょう。

